

2021年2月9日

各位

会社名 株式会社ブリヂストン
本店所在地 東京都中央区京橋三丁目1番1号
代表者 取締役 代表執行役 CEO
石橋 秀一
上場取引所 東京・名古屋（各一部）及び福岡
コード番号 5108
問い合わせ先 責任者役職名 G財務戦略部門 IR部長
氏 名 佐治 健太郎
電話番号 (03)6836-3100

連結業績予想の修正及び個別業績予想に関するお知らせ

2020年11月12日に公表した2020年12月期（2020年1月1日～2020年12月31日）の連結業績予想を下記のとおり修正しましたのでお知らせします。

また、通期の個別業績予想につきまして、前期実績値との間に差異が生じる見込みとなりましたので、併せてお知らせします。

記

1. 2020年12月期 通期連結業績予想数値の修正（2020年1月1日～2020年12月31日）

	売上収益	調整後 営業利益	親会社の 所有者に帰属する 当期利益	基本的1株当たり 当期利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	2,890,000	150,000	△60,000	△85.21
今回修正予想（B）	2,990,000	222,000	△24,000	△34.09
増減額（B-A）	+100,000	+72,000	+36,000	+51.12
増減率（%）	+3.5	+48.0	-	-
（ご参考）前期実績 （2019年12月期）	3,507,243	335,702	240,111	332.31

※連結業績予想ならびに前期実績はIFRS（国際財務報告基準）に基づいて算出した数値です。

2. 通期業績予想修正の理由

前回の業績予想は、第4四半期にCOVID-19再拡大に伴う需要減少の影響を大きく受けることを前提に算出しておりましたが、結果として、需要減少影響は限定的に留まり、トラック・バス用タイヤを中心に第3四半期からの需要回復基調が継続したことから、前回予想時に計画していたタイヤ販売を大きく上回りました。

乗用車・小型トラック用タイヤに関しては、COVID-19 再拡大により 11 月以降、欧米で需要がやや軟化したものの、高インチタイヤ販売は強く推移し、また、新車用タイヤについては、その需要回復基調が第 4 四半期も継続し、回復がより鮮明となりました。

トラック・バス用タイヤに関しては、COVID-19 再拡大の中でも、補修用タイヤ需要が特に堅調に推移し、前年を上回る水準まで回復しました。新車用タイヤの需要回復基調は、第 4 四半期も継続しました。

鉱山車両用タイヤに関しては、鉱物ごとに稼働状況にばらつきがあり、超大型タイヤに需要の弱さが見られたものの、大型・中小型タイヤでは、建設需要を中心に、上期の需要落ち込みから大きく回復しました。

これらのことから、通期連結業績は売上収益が 29,900 億円、調整後営業利益が 2,220 億円、親会社の所有者に帰属する当期損益が 240 億円の損失との見通しとなりました。

3. 2020 年 12 月期 通期個別業績予想（2020 年 1 月 1 日～2020 年 12 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
前期実績（A）	867,267	105,388	203,233	224,719
今回予想（B）	690,000	65,000	96,000	82,000
増減額（B-A）	△177,267	△40,388	△107,233	△142,719
増減率（％）	△20.4	△38.3	△52.8	△63.5

※個別業績予想ならびに前期実績は日本基準に基づいて算出した数値です。

4. 前期個別実績と個別業績予想との差異の理由

当社の個別業績は、日本市場での乗用車・小型トラック用タイヤ／トラック・バス用タイヤ（以下「一般タイヤ」）の販売、並びにグローバルでの鉱山車両用タイヤ販売が、売上高における大きな割合を占めております。

2020 年 12 月期は、COVID-19 の影響による日本市場での一般タイヤ需要減少に加え、鉱山車両用タイヤにおいてもグローバルで需要が低調に推移したことにより、前年に対しタイヤ販売が大きく減少しました。

これにより、2020 年 12 月期の通期個別業績は、売上高 6,900 億円（前年比△20.4%）、営業利益 650 億円（前年比△38.3%）となる見通しとなりました。

また、当期純利益については、関係会社からの配当金減少などの影響も加わり、820 億円（前年比△63.5%）との見通しとなりました。

（注） 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は異なる結果となる可能性があります。

以上